



# 北はりま消防組合 10周年記念誌

## 目次

- ・あいさつ ..... 1
- ・構成市町の紹介、  
北はりま消防組合の概要 ..... 2~3
- ・消防車両と装備 ..... 4
- ・10年のあゆみ ..... 5~9
- ・災害の推移 ..... 10





## 組合設立10周年を迎えて

北はりま消防組合  
管理者 西脇市長 片山 象三

北はりま消防組合は、兵庫県消防広域化推進計画に基づく県内初の広域消防として、平成23年4月に西脇市、加西市、加東市及び多可町の3市1町で設立され、10周年の節目を迎えることとなりました。

これもひとえに、地域住民の皆様をはじめ関係各位のご支援とご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

組合設立以降は、消防行政サービスを最大限提供できる体制を築くため「消防体制整備計画」を策定し、「署所配置計画」に基づく1本部3署7出張所体制を構築するとともに、これらの拠点の能力を最大限発揮すべく、消防職員数の確保にも努めてまいりました。

さらに、地域住民のご理解とお力添えのもと、消防本部の移転、高機能消防指令センター及び消防救急デジタル無線の運用開始、また、署所の整備や車両の増強など、消防力の強化にも努めてきたところです。

一方、組合設立以降、自然災害が激甚化しており、平成28年4月の熊本地震や、西日本を中心に大きな被害をもたらした平成30年7月豪雨など、各地で自然災害が多発し、改めてその脅威を痛感させられたところです。

加えて、近い将来には南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、当地域に存在する御所谷断層帯や山崎断層帯を発生源とする地震をはじめ、大規模自然災害の発生については予断を許さない状況にあるほか、令和に入ってから、日本で初めての新型コロナウイルス感染者が発生し、現在も収束の兆しが見えず、地域住民の生活を脅かし続けています。

このような生活の脅威となる様々な災害から地域住民の皆様生命・身体・財産を守るため、当組合においては、広域消防としてのスケールメリットを最大限に生かしつつ、我々に求められるニーズを的確に捉え、信頼と期待に応えることのできるきめ細やかな消防行政の実現を目指し、より一層力を尽くして地域の安全・安心を確保してまいり所存です。

今後とも、地域住民の皆様をはじめ関係各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、組合設立10周年を迎えてのごあいさつとさせていただきます。

## 10周年記念誌発刊によせて

北はりま消防組合  
消防長 友藤 豊造



北はりま消防組合が平成23年4月に設立され、10周年の節目を迎えることができたのは、ひとえに地域の皆様をはじめ関係各位の深いご理解とご協力の賜物と、心から感謝申し上げます。

組合設立以降、最新鋭の消防指令システムやデジタル無線の導入、また、署所整備により消防本部の移転をはじめ、管内10拠点24時間体制の構築、さらには、消防車両の増強・更新など、広域化によるスケールメリットを生かした中での消防体制の充実・強化に努めてまいりました。

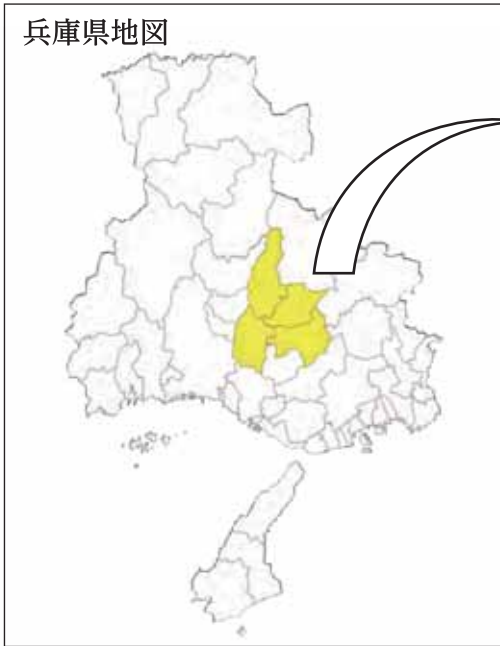
近年は、全国的に地震や豪雨による自然災害が頻発化、激甚化しており、消防に求められる期待や信頼は大きく、我々の果たす役割はますます重要なものとなっております。

北はりま消防は、この10年を礎に、新たな決意をもって地域の安全・安心の確保に職員一丸となって取り組むとともに、地域に密着した消防として、住民の皆様の声に耳を傾け、きめ細やかで優しさをもった行政サービスを目指してまいり所存です。

このたび、北はりま消防組合の未来へつなぐ10年の軌跡として、ここに記念誌を発刊いたしました。これからも、当組合行政の運営にご理解をいただくとともに、皆様の一層のご支援、ご指導をお願い申し上げ、記念誌発刊によせてのごあいさつとさせていただきます。



# 構成市町の紹介、北はりま消防組合の概要



## ・西脇市

兵庫県のほぼ中央部、東経135度と北緯35度が交差する「日本列島の中心・日本のへそ」に位置する西脇市は、200年以上の伝統を誇る播州織をはじめ、全国総生産量の90%を占める釣針産業、神戸ビーフの素牛となる「黒田庄和牛」の生産などが地場産業として展開され、豊かな資源と多様な特性を持つ自然豊かな田園協奏都市です。

市章



配置署所

- ①北はりま消防本部
- 西脇消防署
- ③西脇消防署西脇北出張所



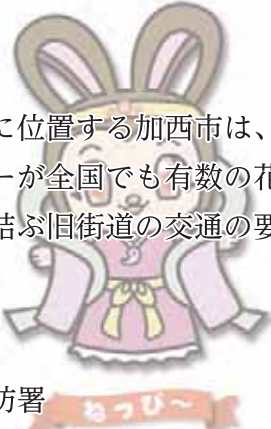
## ・加西市

兵庫県の南部、播州平野のほぼ中央に位置する加西市は、自然豊かな美しい景観に恵まれ、広大な自然林を生かした兵庫県立フラワーセンターが全国でも有数の花の公園として知られています。また、玉丘古墳を代表とする古墳群、山陰・山陽を結ぶ旧街道の交通の要衝として栄えた市街地など、それぞれが往時の面影を今に伝えています。

市章



配置署所

- ④加西消防署 
- ⑤加西消防署加西西南出張所
- ⑥加西消防署加西西北出張所



# 構成市町の紹介、北はりま消防組合の概要

## ・加東市

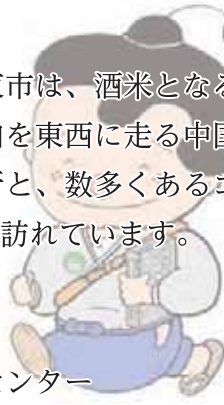
兵庫県中央部やや南よりに位置する加東市は、酒米となる山田錦の生産を中心とした農業や釣針・鯉のぼりの生産が地場産業として営まれ、市内を東西に走る中国縦貫自動車道により京阪神地域とも直結し、東条湖、闘竜灘をはじめとする様々な名所と、数多くあるゴルフ場、兵庫県立播磨中央公園や東条湖おもちゃ王国などの行楽施設にも多くの方々が訪れています。

### 市章



### 配置署所

- ②消防指令センター
- ⑦加東消防署
- ⑧加東消防署東条出張所



## ・多可町

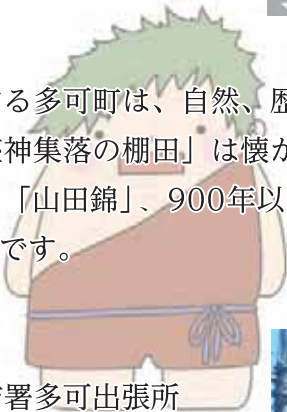
兵庫県の東播磨地域の内陸部に位置する多可町は、自然、歴史資産、地元の食材を使った特産品などが豊富で、日本の棚田百選のひとつ「岩座神集落の棚田」は懐かしくも不思議な田園風景を今に残しています。また、酒米の最高峰として知られる「山田錦」、900年以上の歴史を持つ手すき和紙の「杉原紙」、国民の祝日にあたる「敬老の日」発祥の町です。

### 町章



### 配置署所

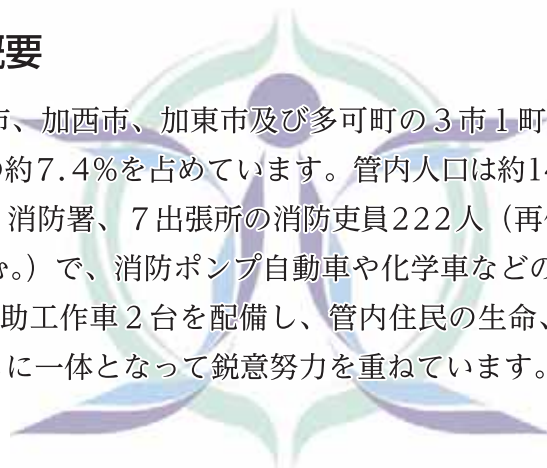
- ⑨西脇消防署多可出張所
- ⑩西脇消防署多可北出張所
- ⑪西脇消防署多可南出張所



## ・北はりま消防組合の概要

北はりま消防組合は、西脇市、加西市、加東市及び多可町の3市1町で構成され、管内面積は625.40平方キロメートルで、兵庫県の約7.4%を占めています。管内人口は約14万人。

消防体制は、1消防本部、3消防署、7出張所の消防吏員222人（再任用短時間勤務職員及び初任教育生などの条例定数外職員を含む。）で、消防ポンプ自動車や化学車などの消防車両14台、水槽車1台、はしご車3台、救急車13台、救助工作車2台を配備し、管内住民の生命、身体及び財産を火災等の災害から守るため、管内消防団とともに一体となって鋭意努力を重ねています。





# 消防車両と装備

## 消防車両



写真は中型車で日本初の大容量水槽搭載車

### 水槽付消防ポンプ自動車

配備数 8台  
西脇・西脇北・多可  
加西・加西南・加西北  
加東・東条



大口径放水銃を搭載

### 化学消防ポンプ自動車

配備数 1台  
加東



1,300ℓの水槽と自動薬液混合装置を搭載

### 消防ポンプ自動車

配備数 5台  
西脇・多可北（水槽付）  
多可南・加西（水槽付）  
加東



水10,000ℓと小型動力ポンプを搭載

### 小型動力ポンプ付水槽車

配備数 1台  
加西



### はしご付消防自動車

配備数 3台  
西脇（ポンプ付）  
加西（35m）  
加東（屈折Σ）

## 消火系 装備



熱画像直視装置を用いた消火活動



各種消火用 ノズル

## 救 助



当組合初のバス型の車両

### 救助工作車

配備数 2台  
西脇・加西



油圧救助資器材



画像探索器II型

## 救 急



反射材を使用し現場活動の安全性が向上

### 高規格救急車

配備数 13台  
各 署 2台  
各出張所 1台



自動心臓マッサージシステム



陰圧式患者搬送用器具「アイソレーター」



# 10年のあゆみ



## 北はりま消防組合の発足 記念式典 平成23年4月1日

北はりま消防組合が発足し、西脇市、加西市、加東市及び多可町の3市1町を管轄する広域消防が誕生しました。当初は、加東市旧滝野庁舎内に消防本部を置き、広域化による初動体制の強化をはじめ、消防に関する行財政運営の効率化と基盤強化に取り組みました。



## 水槽車の寄贈 平成24年3月26日

明石市から小型動力ポンプ付水槽車II型(10t)の寄贈を受け、管内の林野火災や高速道路火災等に対応するため、加西消防署に配備しました。



# 2011

# 2012



## 東日本大震災への緊急消防援助隊の派遣

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、当組合からも緊急消防援助隊として被災地への災害派遣を行い、主に宮城県、福島県での行方不明者の捜索と救急搬送業務に従事しました。





## 高機能消防指令センター開設 平成26年7月1日

管内の119番通報を受報する「高機能消防指令センター」を開設し、消防救急デジタル無線の本格運用を開始しました。



# 2013

# 2014



## 全国消防救助技術大会出場(広島県)

平成25年8月22日

全国から救助隊員の精鋭が集う全国消防救助技術大会の「はしご登はん」の部に、上月佑介隊員が初出場を果たしました。合併以前の旧消防本部体制を含め、当組合からは初の全国大会出場でした。



# 10年のあゆみ

## 東条出張所移転

平成28年4月1日

東条出張所（旧東条分署）が加東市旧東条庁舎の一部を増改築した庁舎に移転し、業務を開始しました。



## 化学車の更新配備

平成30年3月16日

加東消防署に最新鋭の化学消防ポンプ自動車を更新配備しました。大規模危険物火災に対応できる毎分2,000ℓの放水が可能な放水銃を装備し、管内の工業団地等の危険物施設や高速道路上の災害にも対応しています。



## 西脇北出張所開庁 平成29年4月1日

西脇市北部を管轄する西脇北出張所を新規開庁し、水槽付消防ポンプ自動車と高規格救急自動車を配備した24時間体制を整備しました。これにより、昼間のみに対応していた黒田庄消防駐在所を廃止しました。



# 2015

# 2016

## 全国消防救助技術大会出場(兵庫県)平成27年8月29日

地元兵庫（神戸市）で開催された全国消防救助技術大会に、当組合から「はしご登はん」の部に山本逸人隊員、「応用登はん」の部に澁谷真一・宇仁肇の両隊員がペアとして出場しました。「応用登はん」の部に出場した両隊員は、翌年、愛媛県で開催された大会にも2年連続での出場を果たしました。



## 熊本地震への災害派遣

平成28年4月14日に発生した熊本県熊本地方を震央とする最大震度7を記録した地震でも、当組合から救急隊1隊を緊急消防援助隊として現地に派遣しました。





## 西脇消防署耐震補強工事

平成30年4月1日

西脇消防署の庁舎耐震改修及び増改築工事が完成しました。また、消防本部が旧滝野庁舎から移転し、消防本部及び消防署の業務を開始しました。



## 加東消防署新庁舎完成

平成30年4月1日

加東消防署の新庁舎及び訓練塔が完成し、移転後の業務を開始しました。また、庁舎敷地にはヘリポートを併設し、高度医療を要する救急事案でのドクターヘリとの連携拠点にもなっています。



# 2017

# 2018



## 西日本豪雨への災害派遣

平成30年7月上旬、西日本を中心とした豪雨により、多くの地域で河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、死者数が200人を超える甚大な災害となりました。緊急消防援助隊の兵庫県隊として、当組合からも職員を派遣し、広島県での捜索救助活動を実施しました。



# 10年のあゆみ



## 多可北・南出張所開庁

平成31年4月1日

多可町北部を管轄する多可北出張所及び多可町南部を管轄する多可南出張所をそれぞれ新規開庁し、消防ポンプ自動車と高規格救急自動車を配備した24時間体制を整備しました。これにより、昼間のみに対応していた加美消防駐在所及び八千代消防駐在所を廃止するとともに、多可消防署を多可出張所に改め、管内3署7出張所体制での拠点運用を開始しました。また、令和3年には多可出張所の新庁舎が完成し、移転後業務を開始します。



上段:アイソレーター  
下段:オゾンガス発生装置

## 感染対策資機材の整備

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、消防・救急体制に多大な影響を受ける中、感染防止対策資機材の整備を進め、消防・救急体制の維持・確保に努めました。

# 2019

# 2020



## G20 大阪サミット消防特別警戒

令和元年、大阪市で開催されたG20大阪サミットの特殊災害テロの警戒のため、当組合から職員を派遣しました。警戒期間中は化学物質、神経ガスによるテロを想定した訓練を実施し、常に緊張感をもって会場警戒に当たりました。



## 全国救急隊員シンポジウム発表

令和2年1月30・31日

宮城県仙台市で開催された第28回全国救急隊員シンポジウムで、当組合の坂本政法、杉本健太の両救急隊員が「大腿骨頸部骨折の予後に関すること」及び「高齢者福祉施設との連携について」を題目として管内の救急事情をとらえた発表を行い、会場の注目を集めました。当組合からは、平成29年に開催された同シンポジウムでも、村井慎二郎救急隊員が発表を行いました。



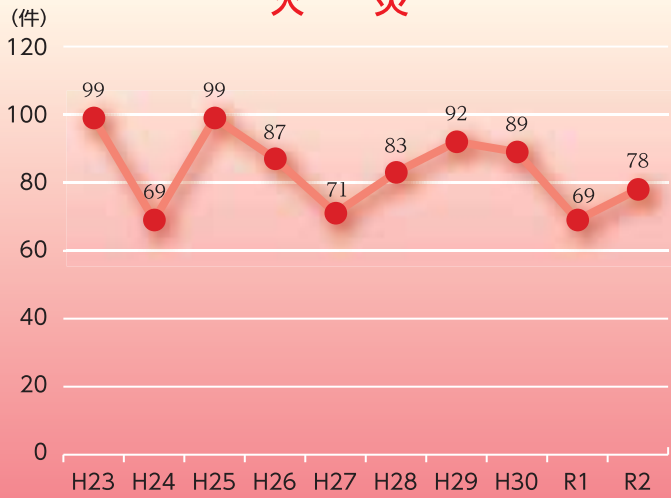
## 新型コロナウイルスまん延

令和2年1月に日本で初めて新型コロナウイルスへの感染者が発生し、その後、全国に感染が拡大しました。人々の生活様式とともに、消防活動にも大きな変革が求められました。

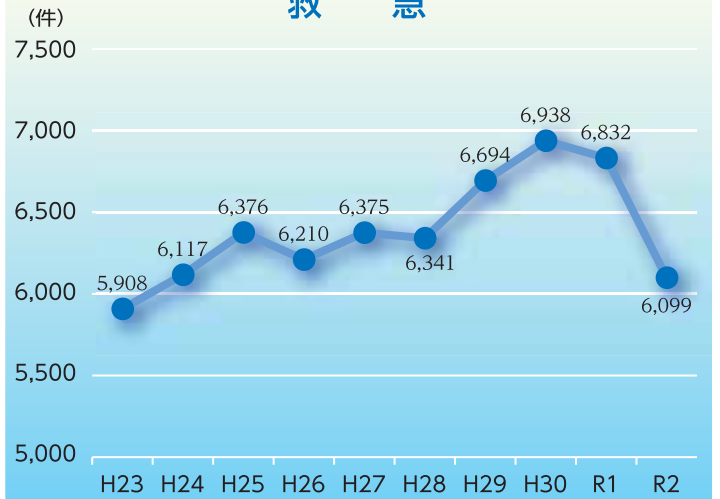


# 災害の推移

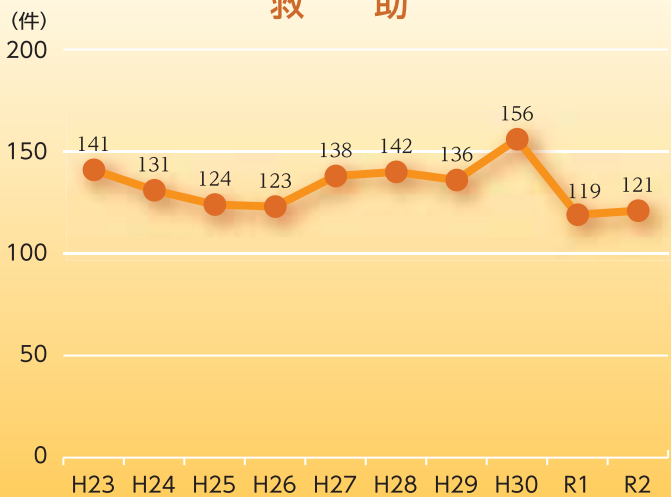
## 火 災



## 救 急



## 救 助







北はりま消防組合10周年記念誌

令和3年10月発行

編集／北はりま消防組合発足10周年記念事業実行委員会

発行／北はりま消防組合

